

我輩は犬である。熊ではない。名前はチャドと言う。我輩がしんぺい君ちに来てもらつて4年になる。おかげで、幸せな人(大)生を送らせてもう四年になる。おかげで、本来、我輩の仲間は使役犬(ワーキングドッグ)といつて、人の仕事を手助けするために生まれてきた犬なのである。

雨風・酷暑・大雪でも、外で泥だらけになつて働く

★★★★★ チャド ★★★★★

みちの散歩径(三)

★★★★★

【茶】 我輩は今とても幸せなのである。



これまでの植林実施場所

福岡市の森林は市域の約3分の1を占めており、土砂流出防

止や水源涵養に加え、漁場改善など多面的機能を備えている。

そのような中、平成15年に福岡市漁業組合が漁業者による植林活動を計画、福岡市の協力を得て、平成16年3月に「第一回森と海の再生交流事業」による植林が行なわれた。

第一回目の植林場所は、室見川水系上流の曲渕にある水道局所有の土地に水源涵養林として、42名の漁師たちの手によってスギやヤマザクラの苗木135本が植林された。

その後、早良区曲渕地区を中心毎年一回、漁業者はもとより、近年では林業関係者および

近年、森林の荒廃や河川環境の変化が原因と考えられる漁場の荒廃が全国各地で生じる中、豊かな漁場を維持するうえで森林から供給される河川水が重要な役割を果たしていることの認識が高まってきた。このような認識のもとに、漁業者による植林活動が各地で広がり、高い評価を受けるようになった。平成13年度には、25都道府県で約150カ所が実施され、その数は年々増加の傾向にある。

森と海

木を植える漁師たち!!



クヌギの苗木を植えるしんぺい議員

豊饒の海が一日も早く甦ることと待ち望まれる。

【和】



早く大きくならないかな~。

心育と五感

きらきら輝く“ふたば”となれ!!

新緑が眩しいころ、園内には子どもたちの元気な声が響き渡り、入口では小崎孝子園長が満面の笑みで出迎えてくれました。その優しい笑顔に、この園の教育がどのようなものであるか垣間見たような気がしました。

東区の端、志賀島のふたば幼稚園を訪問した時の印象です。園児は59名。地元の子は僅か7名でほとんどの園児は、同園

なかねてより「山から海までつながる自然や水の循環を守ることが豊かな農地や林地、そして漁場を守ることになる。それは、第一次産業の保護にもつながる(しんぺい通信第一号参照)と考える、しんぺい議員も毎回この植林事業に参加、多くの苗木を植えてきた。

今後、このような森づくりの活動がさらに活発になり、豊かな森が増えることで、かつての太郎が死んで悲しいはずなのに、心からそう思えたのでした。後に太郎と名付ける、この犬と出会ったのは'01年8月の動物管理センター。事故に遭い動けなくなつたところを保護され、手当てを受けて横になつたままでした。そして、飼い主も引き取り手も見つからず殺処分の対象となつたこの犬を不憫に思つた管理センター職員の方が私たちに声をかけてくれたのでした。

年齢は約10歳で足を引きずつて歩くため、里親を探すには極めて厳しい条件のこの犬を私たちが引取り、里親探しをすることにしました。そして日本犬らしい顔立ちと愛嬌の良さから「太郎が死んで悲しいはずなのに、心からそう思えたのでした。後に太郎と名付ける、この犬と出会ったのは'01年8月の動物管理センター。事故に遭い動けなくなつたところを保護され、手当てを受けて横になつたままでした。そして、飼い主も引き取り手も見つからず殺処分の対象となつたこの犬を不憫に思つた管理センター職員の方が私たちに声をかけてくれたのでした。

【和】

天国の大郎へ



中でも平成11年から始めた「地球探検隊」は地域のゴミや空き缶拾いを行つ体験型保育を通して、子どもたちの基本的生活習慣を養うことを目的としています。「子どもが自発的にゴミ等を拾うようになります」と言う家族からの話しさを聞いて、実体験によると、環境学習が定着しつつある環境を実感でき、公共心豊かな子どもに育つている喜びを感じるそうです。

「08年第2回福岡市環境行動賞の大賞」を受賞しました。「きらきら輝く“ふたば”に育つて欲しい」そう語る、小崎園長の瞳もまた、きらきらと輝いていました。

【清・輝・和】



新しい家でくつろぐ太郎



川上しんぺい市政報告 Vol.3

発行責任者
川上しんぺい

〒811-0321
福岡市東区西戸崎6-2-7
☎ 092-603-6815
Fax 092-603-6825



奈美のひとり言 ③

福岡市東区の西戸崎駅から糟屋郡宇美町の宇美駅に至るJR九州の鉄道路線。路線長25.4km、16駅で単線・非電化のこの短い路線を、地元の人たちは香椎駅を基点として西戸崎方面を「西戸崎線」、宇美方面を「宇美線」と愛着を持つて呼んでいる。

1980年ころ、同路線は旧国鉄の赤字83線に含まれ廃止が噂されるなど寂れた路線であつたが、沿線の宅地開発や昭和56年国営

海の中道海浜公園の開園などにより、一日16往復(現在24往復)にまで増便され廃止の噂は払拭された。今でも国鉄時代のキハ47系や40系車両が元気に走りまわっている。

もともと香椎線の歴史は、糟屋郡須恵村の海軍炭鉱(通称)の石炭を同志賀村の西戸崎港へ運ぶため博多湾鉄道(後の博多湾鉄道汽船)が明治37年に西戸崎須恵間に鉄道を敷設したことに始まる。明治38年には新原駅が、さらに半年後には宇美村まで延長され宇美駅が開業した。これら駅で貨車に積まれ、蒸気機関車に引かれて西戸崎港へ、

1980年ころ、同路線は旧国鉄の赤字83線に含まれ廃止が噂されるなど寂れた路線であつたが、沿線の宅地開発や昭和56年国営

海の中道海浜公園の開園などにより、一日16往復(現在24往復)にまで増便され廃止の噂は払拭された。今でも国鉄時代のキハ47系や40系車両が元気に走りまわっている。

もともと香椎線の歴史は、糟

屋

郡

須

恵

村

の

海

軍

炭

鉱

(通称)

の

石

炭

を

同

志

賀

村

の

西

戸

崎

港

へ

引

か

れ

て

西

戸

崎

港

へ

運

ぶ

た

め

博

多

湾

鉄

道

汽

船

が

明

治

37

年

に

西

戸

崎

が

開

業

し

た

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。